

第35回 熊本大学附属図書館貴重資料展

熊本藩に生まれ近代

―手永・惣庄屋制と地域行政―

期間 令和元年11月2日(土)～4日(月)

10時～17時

会場 熊本大学附属図書館 1階

古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

同時開催

公開講演会・第14回永青文庫セミナー

演題

熊本藩政と手永・惣庄屋制 ―近代地方自治の胎動―

講師 今村直樹 (熊本大学永青文庫研究センター 准教授)

日時 令和元年11月2日(土) 14時～15時30分

会場 熊本大学附属図書館 1階 ラーニングコモンズ

※聴講無料(先着140名まで)事前申込不要



古閑忠右衛門
肖像画(個人蔵)

入場・聴講 無料
近代地方自治の歴史的基盤を明らかにする

共催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター

協力 公益財団法人永青文庫

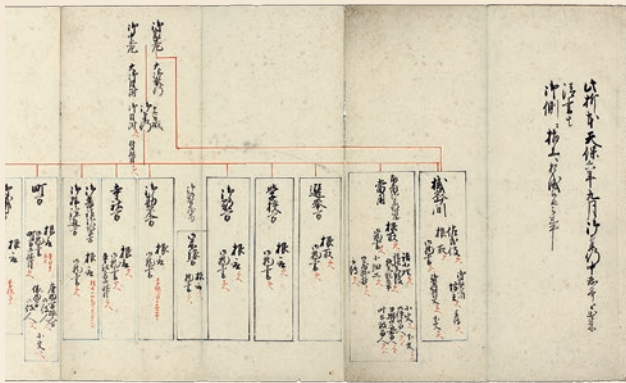
後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB



熊本藩に生まれた近代

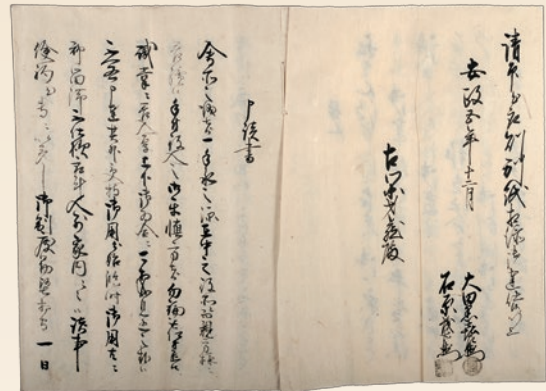
—手永・惣庄屋制と地域行政—

熊本藩の地方統治は、同時代からも後の時代からも、高い評価を受けていました。その理由は、①藩行政の仕組みや官僚制が高度に整備されていたこと、②百姓出身の惣庄屋を責任者とする「手永」(地域行政機構)が、独自の吏員と財源をもち、耕地開発・災害復旧・社会救済などの広範な行政活動を展開したことにあります。本展覧会は後者に力点を置き、近代地方自治制の重要な前提となった手永・惣庄屋制の実態を明らかにします。熊本地震後に救出された惣庄屋文書(古閑家文書)も初公開します。



「職制」天保6年9月(永青文庫)

当時の藩主細川斉護のために作成された、熊本藩の職制機構図。行政・軍事・家政に関わるすべての役職名とその人員が記されており、熊本藩の運営が9,000人以上によって支えられていたことがわかる。なかでも、最大の人員(約1,800人)を有したのが地方行政担当部局の郡方である。さらに、その9割以上を占めていたのは、手永の役人たる惣庄屋たちや在御家人(金納郷士)であった。藩政における地域行政の重要性がよく分かる史料である。



「申談書」安政5年11月(古閑家文書)

託摩郡本庄手永の幹部役人である手代が、手永会所に勤務する若手たちに、役人としての心構えを示した文書。「会所之儀者一手永之源、在中之役所ニ而」という象徴的な文言から始まり、惣庄屋のもとで自らの担当業務に精を入れること、村役人や小百姓への応対は懇切丁寧に行うこと、「衆力一致」して業務に取り組むこと、などが説かれている。手永会所における役人たちの言動の規律化を示した興味深い史料である。

永青文庫とは

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した美術品や文学作品の写本、そして歴史資料(古文書・古記録)等を所有・管理する財団の名称です。これらの品々のうち、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた数万点の歴史資料や写本が1964年に熊本大学へ寄託され、現在まで附属図書館(中央館)で管理しています。

アクセス



熊本大学附属図書館 (中央館)



◎熊本桜町バスターミナル

(旧称:熊本交通センター)から
(16番のりば)産交バス・電鉄バス:
楠団地、光の森、大津行き等(子飼・熊本大学経由)
「熊本大学前」下車 徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1

096-342-2212

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター
「くまぼん」